

教育研究上の目的

人間生活学部は、建学の精神に基づき、「食・栄養・運動・福祉」を教育研究の中核とし、人々の豊かな生活と健康の保持・増進に寄与するために必要な専門的知識と技能を備え、多様な人々の健康で幸福な【健幸】を支援できる人材を育成することを教育研究上の目的とする。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

人間生活学部は、次の学生像を人材育成の方針とする。

1. 「食・栄養・運動・福祉」に関する知識を基に、生涯にわたって人・社会に関心をもち、「健幸」について科学的に思考し、探究しつづける力を備えている。
2. 多様な価値観と向き合い、他者を尊重し互いを認め合いながら、連携・協働する力を備えている。
3. 人間生活における様々な課題を見い出し、解決するための策を思考し、実践する力を備えている。

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

共通科目 カリキュラムマップ

 → 必修科目

領域	学生が身につけるべき資質・能力	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
ゼミナール	- 文章や資料の意味や意図を理解するとともに、自分の考えを文章や図表などを活用してわかりやすく他者に伝えることができる。 - 他者の意見に耳を傾けてその考え方を理解したり、話し合いを通して共感したりするとともに、自分の意見をまわりの人にわかりやすく伝えることができる。 - 実社会や実生活を分析的に捉え、身の回りにある課題に気付くとともに、その解決に向けて必要となる情報や資料を収集し解決に向けた糸口を見つけることができる。 - 実社会や実生活の中から課題を見出し、問いを立てて情報を収集し、整理・分析してまとめ、表現することができる。 - 身のまわりの課題解決に向けて、グループやチームで協働的に取り組み、話し合いを通して考えをまとめ、表現することができる。 - 実社会や実生活にある問題の背景を探り、手順を踏んで検討を重ね、解決に向けたアイディアを分かりやすく表現することができる。 - 他者との関わりの中で、主体的・協働的に取り組むとともに、自分の目標を明確にしながら積極的に問題解決に取り組むことができる。 - 他者との関わり合いの中で、互いのよさや役割を意識しながら新たな価値の創造を目指して協働的に課題解決に取り組むことができる。 - 他者と協働しながら解決策を検討するとともに、関係者の意見を取り入れながら更なる課題を見出し、その解決策を継続して探究していくことができる。	入門ゼミナール			
		課題発見・探求ゼミナール			
			課題解決ゼミナール		
総合	- 講義や講話を聞いて、自己の既有知識及び他者の既有知識、概念と照合する中で、今までの先入観を壊すような学修をすることができる。 - 講義や講話を聞いて、問題意識をもち、疑問を持って学修する中で、今までの先入観を壊すような学修をすることができる。 - 講義や講話に基づいて関連する情報を集めたり、自己内対話を行う、他者と対話したりなどし、適切なノートテイキングができる。 - 講義や講話に基づいて関連する情報を集めたり、疑問点を整理したりする中で、適切なノートテイキングができる。 - 講義や講話に基づいて自ら選択した科目の重要性に気づいたり、そこでの知見及び他者からの地検を将来に生かそうとしている。 - 講義や講話に基づいて自ら選択した科目の重要性に気づいたり、芽ばえた疑問点を追究する中で得られた知見を将来に生かそうとしている。	地域で学ぶ 人間関係とコミュニケーション 総合科目 自主社会活動			
			地域と人間生活 人間理解ワークショップ		
人間	- 資料を読解し、疑問を持ってその内容を追究し、必要な資料を探索して研究することができる。 - さまざまな人の考え方を学びながら、自分にできることを見極め、積極的に行動するとともに、グループやチームでの協働的な問題解決に取り組むことができる。 - 社会の実態を捉え、そこから問題を見つけるとともに、解決に向けて、多様な資料を活用しながら解決に向けた糸口を手に入れることができる。 - 自己課題を見つけ、解決に向けて行動するとともに、その過程を省察しつつ論理的に表現することができる。 - 他者との関わりにおいて課題を見つけ、解決に向けて仲間と一緒に行動するとともに、その過程を仲間とともに省察し、チームとしての成果を発表することができる。 - 現実の社会における事実の背景を探り、ものごとのプロセスを踏まえた検討ができ、解明した内容に関するレポートができるようになる。 - 自ら資料を収集し、内容を分析するとともに、複数の意見をもとに考察を深め、他者と力を合わせ、追究することができる。 - 他者との関わりの中で資料を収集し、その内容を仲間とともに分析するとともに、多様な意見を踏まえた考察を深め、新たな追究課題を創造できる。 - 捉えた社会の姿をもとに、そこに至る過程に光をあてて、将来に向けての解決のためのビジョンを構想したり、仲間とともに実践的に解決策を考えることができる。	キャリアデザインとライフプラン リーガルリテラシー ジェンダーリテラシー 子育てと環境 女性と健康			
		女性の心と身体			
			食の科学 歴史のなかの女性 芸術を読むとる		
社会	グローバル社会 ネットワーク社会 共生社会入門 多様性と倫理 持続可能な社会				
		くらしのなかの日本国憲法 ボランティア論			
			災害と社会 21世紀型の教育		
体育保健		身体運動Ⅰ 身体運動Ⅱ			

ICT・データサイエンス	- ICT機器の操作、ネットワークに関する基礎的な知識を理解している。 - 情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性を理解し、情報倫理を踏まえたICT活用について理解している。 - データを収集、整理、分析する方法を身につけ、表現方法について理解し、さまざまな社会課題を解決していく力を働けている。 - 情報技術を適切かつ効果的に活用する力を理解し、実際にICT機器の基本となる操作ができる。 - 情報発信における責任、情報モラルについて理解し、情報発信手段の特性の理解及び、適切な手段の選択ができる。 - 問題・課題の発見と解決に向けて意思決定する力を備えており、社会的な課題を解決することができる。 - ネットワークサービス、コミュニケーション手段の特徴を理解し、それを生かしたICTを活用した情報発信や情報収集をすることができる。 - 情報社会・主体的に参画する態度を身につけ、自ら積極的に情報を収集し、発信することができる。 - 社会における課題をICTを用いて解決しようとするときに、仲間とともに協力して課題の解決に向けた方策を検討したり、その成果を生かして、身近な課題を解決することができる。	はじめてのデータサイエンス 情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ			
外国語（基礎科目）	- 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解をさらに深めるとともに、音声から得られる情報の内容を的確に把握・情報を整理することができる。 - コミュニケーションを行う目的や場面・状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、その概要や要点・詳細・話し手や聞き手の意図などを的確に理解し、実際のコミュニケーションにおいて活用できる。 - 言語を通じて得た文化や社会的な課題について、複数の資料を収集・活用して、考察を深めることができる。 - 文字・音声から得られる情報の内容を的確に把握・情報を整理し、その概要を文字・音声を使用し、わかりやすい形で表出できる。 - コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報を整理しながら考えなどを形成し、伝え合うことができる。 - 言語を通じて得た文化や社会における課題について、自らの意見をまとめ、表現することができる。 - 日常的な話題や社会的な話題について資料を整理・分析し、その概要や自分の意見を論理的に表出したり、他者の意見との違いについて考察を深めることができる。 - コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、他者の考えを聞いたり、読んだりし、多様な意見を踏まえたうえで考察を深めることができる。 - 言語を通じて得た文化や社会的な課題について、複数の資料を収集・活用して、考察を深め、仲間とともに課題を追究することができる。	英語コミュニケーション演習 英語Ⅰ a 英語Ⅰ b 中国語Ⅰ a 中国語Ⅰ b 朝鮮語Ⅰ a 朝鮮語Ⅰ b フランス語Ⅰ a フランス語Ⅰ b	英語Ⅱ a 英語Ⅱ b 中国語Ⅱ a 中国語Ⅱ b		
		海外語学研修			
		アドバンスト・リスニング アドバンスト・リーディング アドバンスト・ライティング TOEIC対策講座 中国語試験対策講座 日本語検定対策講座			
外国語目的科目			実践英語 a 実践英語 b ビジネス英語 映画・ドラマ英語 メディア英語		
日本語（非母語者用）	- 資料を読解し、疑問を持ってその内容を追究し、必要な資料を探索して研究することができる。 - さまざまな人の考え方を学びながら、自分にできることを見極め、積極的に行動するとともに、グループやチームでの協働的な問題解決に取り組むことができる。 - 社会の実態を捉え、そこから問題を見つけるとともに、解決に向けて、多様な資料を活用しながら解決に向けた糸口を手に入れることができる。 - 自己課題を見つけ、解決に向けて行動するとともに、その過程を省察しつつ論理的に表現することができる。 - 他者との関わりにおいて課題を見つけ、解決に向けて仲間と一緒に行動するとともに、その過程を仲間とともに省察し、チームとしての成果を発表することができる。 - 現実の社会における事実の背景を探り、ものごとのプロセスを踏まえた検討ができ、解明した内容に関するレポートができるようになる。 - 自ら資料を収集し、内容を分析するとともに、複数の意見をもとに考察を深め、他者と力を合わせ、追究することができる。 - 他者との関わりの中で資料を収集し、その内容を仲間とともに分析するとともに、多様な意見を踏まえた考察を深め、新たな追究課題を創造できる。 - 捉えた社会の姿をもとに、そこに至る過程に光をあてて、将来に向けての解決のためのビジョンを構想したり、仲間とともに実践的に解決策を考えることができる。	総合日本語Ⅰ a 総合日本語Ⅰ b			
		日本語表現技術Ⅰ 日本語表現技術Ⅱ 日本語表現技術Ⅲ 日本語表現技術Ⅳ 日本語研究 A（時事Ⅰ） 日本語研究 B（時事Ⅱ） 日本語研究 C（ビジネスⅠ） 日本語研究 D（ビジネスⅡ） 日本語研究 E（医療・福祉専門） 日本語研究 F（人文科学） 日本語能力試験対策講座Ⅰ 日本語能力試験対策講座Ⅱ 日本語集中講座（編入）			
			総合日本語Ⅱ a 総合日本語Ⅱ b	総合日本語Ⅲ a 総合日本語Ⅲ b	
キャリア教育	- 資料を読解し、疑問を持ってその内容を追究し、必要な資料を探索して研究することができる。 - さまざまな人の考え方を学びながら、自分にできることを見極め、積極的に行動するとともに、グループやチームでの協働的な問題解決に取り組むことができる。 - 社会の実態を捉え、そこから問題を見つけるとともに、解決に向けて、多様な資料を活用しながら解決に向けた糸口を手に入れることができる。 - 自己課題を見つけ、解決に向けて行動するとともに、その過程を省察しつつ論理的に表現することができる。 - 他者との関わりにおいて課題を見つけ、解決に向けて仲間と一緒に行動するとともに、その過程を仲間とともに省察し、チームとしての成果を発表することができる。 - 現実の社会における事実の背景を探り、ものごとのプロセスを踏まえた検討ができ、解明した内容に関するレポートができるようになる。 - 自ら資料を収集し、内容を分析するとともに、複数の意見をもとに考察を深め、他者と力を合わせ、追究することができる。 - 他者との関わりの中で資料を収集し、その内容を仲間とともに分析するとともに、多様な意見を踏まえた考察を深め、新たな追究課題を創造できる。 - 捉えた社会の姿をもとに、そこに至る過程に光をあてて、将来に向けての解決のためのビジョンを構想したり、仲間とともに実践的に解決策を考えることができる。	インターンシップ短期 インターンシップ長期			
		キャリアデザイン入門 キャリアロールモデル研究 企業に学ぶキャリアデザイン プロアクティブ人材育成			
		キャリア基礎力Ⅰ キャリア基礎力Ⅱ			
			キャリアサポート演習		
Dr.	人間生活学部は、次の学生像を人材育成の方針とする。 1. 「食・栄養・運動・福祉」に関する知識を基に、生涯にわたって人・社会に関心をもち、「健康」について科学的に思考し、探究しつづける力を備えている。 2. 多様な価値観と向き合い、他者を尊重し互いを認め合いながら、連携・協働する力を備えている。 3. 人間生活における様々な課題を見い出し、解決するための策を思考し、実践する力を備えている。				

人間生活学部 (N)

共通科目教育課程 2025年度生

科目群		卒業に必要な単位数
共通	必修	9単位
	選択必修	6単位
	選択	7単位以上
計		22単位以上

- 必修科目9単位履修すること
- 選択必修科目6単位履修すること。6単位を超えた分は選択科目の単位となる。
- 選択科目7単位以上履修すること
- 合計22単位以上履修すること

▶履修期欄に「前・後」と記載がある科目は、配当年次のいずれかを履修すればよい。

科目区分	授業科目	単位数			授業形態	履修期	配当年次	備考	身につく力 (○…重要な目的としている ○…主な目的としている)									
		必修	選択必修	選択					把握・資料探索	資料読解・問題決への模索・省察	協働的課題追究	協働的課題追究	協働的課題追究	協働的課題追究	協働的課題追究	協働的課題追究	協働的課題追究	協働的課題追究
セミナー	入門ゼミナール	2			講義	前	1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	課題発見・探求ゼミナール			1	演習	後	1・2・3・4		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	課題解決ゼミナール			2	演習	前・後	2・3				○	○	○	○	○	○	○	○
	総合ゼミナール			2	演習	前・後	3・4				○	○	○	○	○	○	○	○
総合	地域で学ぶ			2	講義	前・後	1・2・3・4		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	地域と人間生活	2			講義	前・後	2・3・4		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	人間関係とコミュニケーション			2	講義	後	1・2・3・4		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	人間理解ワークショップ			2	講義	前・後	2・3・4		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	総合科目			2	講義	前・後	1・2・3・4		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人間	自主社会活動			1	演習	前・後	1・2・3・4		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	キャリアデザインとライフプラン		2		講義	前・後	1				○			○				
	リーガルリテラシー		2		講義	前・後	1			○	○				○	○	○	○
	ジェンダーリテラシー		2		講義	前・後	1			○					○	○	○	○
	子育てと環境		2		講義	前・後	1			○					○	○	○	○
	女性と健康		2		講義	前・後	1			○	○				○	○	○	○
	女性の心と身体			2	講義	前・後	1・2・3	教員免許取得希望者は必修			○		○			○	○	○
	食の科学			2	講義	前・後	2・3		○		○	○	○					
	歴史のなかの女性			2	講義	前・後	2・3			○	○	○	○					
	芸術を読みとる			2	講義	前・後	2・3		○			○						
社会	グローバル社会		2		講義	前・後	1				○	○			○			○
	ネットワーク社会		2		講義	前・後	1		○	○			○		○	○		
	共生社会入門		2		講義	前・後	1			○		○		○		○		
	多様性と倫理		2		講義	前・後	1		○	○	○				○		○	○
	持続可能な社会		2		講義	前・後	1		○	○		○			○		○	○
	くらしのなかの日本国憲法			2	講義	前・後	1・2・3	教員免許取得希望者は必修	○			○	○			○	○	○
	ボランティア論			2	講義	前・後	1・2・3		○		○		○	○				○
体育	災害と社会			2	講義	前・後	2・3			○		○			○	○		
	21世紀型の教育			2	講義	前・後	2・3			○	○	○	○	○	○	○	○	○
ICT・イニシアチブ	身体運動Ⅰ		1		実技	前	1・2・3・4	1科目1単位履修「身体運動Ⅰ」を履修することが望ましい。教員免許取得希望者は2科目2単位履修すること	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	身体運動Ⅱ		1		実技	後	1・2・3・4		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
外国語（基礎科目）	はじめてのデータサイエンス	2			講義	後	1											○
	情報処理演習Ⅰ			1	演習	前	1		○									
	情報処理演習Ⅱ			1	演習	後	1・2・3・4								○			
	英語コミュニケーション演習	1			演習	前・後	1		○	○		○	○					
	英語Ⅰa		1		演習	前	1	12科目から1科目を選択必修	○	○	○							
	英語Ⅰb		1		演習	後	1		○	○	○							
	英語Ⅱa		1		演習	前	2・3・4	ただし、日本語を母国語としない者は、「総合日本語Ⅰa」「総合日本語Ⅰb」を履修すること	○	○	○			○	○	○		
	英語Ⅱb		1		演習	後	2・3・4		○	○	○			○	○	○		
	中国語Ⅰa		1		演習	前	1		○	○		○	○		○	○		
	中国語Ⅰb		1		演習	後	1		○	○		○	○		○	○		
	中国語Ⅱa		1		演習	前	2・3・4	教員免許取得希望者は、「英語Ⅰa」「英語Ⅰb」「中国語Ⅰa」「中国語Ⅰb」「朝鮮語Ⅰa」「フランス語Ⅰa」「フランス語Ⅰb」のいずれか2科目2単位を履修	○	○		○	○		○	○		
	中国語Ⅱb		1		演習	後	2・3・4		○	○		○	○		○	○		
	朝鮮語Ⅰa		1		演習	前	1		○	○		○	○		○	○		
	朝鮮語Ⅰb		1		演習	後	1		○	○		○	○		○	○		
	フランス語Ⅰa		1		演習	前	1		○	○		○	○		○	○		
	フランス語Ⅰb		1		演習	後	1		○	○		○	○		○	○		
	海外語学研修			1	実習	前	1・2・3・4				○				○		○	○

科目区分	授業科目	単位数			授業形態	履修期	配当年次	備考	身につく力 (○…重要な目的としている ○…主な目的としている)										
		必修	選択必修	選択					把握・資料探索	資料読解・問題決への模索・省察	自己課題発見・解決・協働的学習	資料収集・資料分析	対話的検討・自力解決・協働的学習	協働的検討・協働的解決	協働的検討・協働的解決	協働的検討・協働的解決	協働的検討・協働的解決	協働的検討・協働的解決	協働的検討・協働的解決
外国語目的別科目	実践英語 a			1	演習	前	2・3・4		○	○		○	○						
	実践英語 b			1	演習	後	2・3・4		○	○		○	○						
	アドバンスト・リスニング			2	講義	後	1・2・3・4		○	○		○	○			○			
	アドバンスト・リーディング			2	講義	前・後	1・2・3・4		○	○		○	○			○			
	アドバンスト・ライティング			2	講義	前・後	1・2・3・4		○	○		○	○				○		
	ビジネス英語			2	講義	後	2・3・4		○	○		○	○				○		
	映画・ドラマ英語			2	講義	前・後	2・3・4		○	○		○	○						
	メディア英語			2	講義	前	2・3・4		○	○		○	○			○	○		
	TOEIC対策講座			2	講義	後	1・2・3・4		○	○									
	中国語試験対策講座			2	講義	前	1・2・3・4		○	○						○	○	○	
	日本語検定対策講座			2	講義	前・後	1・2・3・4		○	○						○	○	○	
日本語（非母語者向）	総合日本語Ⅰ a			1	演習	前	1	※日本語を母国語としない者は、「総合日本語Ⅰa」を履修すること	○	○				○					
	総合日本語Ⅰ b			1	演習	後	1		○	○				○					
	総合日本語Ⅱ a			1	演習	前	2		○	○				○					
	総合日本語Ⅱ b			1	演習	後	2		○	○				○					
	総合日本語Ⅲ a			1	演習	前	3・4		○	○				○					
	総合日本語Ⅲ b			1	演習	後	3・4		○	○				○					
	日本語表現技術Ⅰ			1	演習	前	1・2・3・4	ただし、JLPTN1を取得している（なければ模擬試験）、かつ、教員が実施する課題をもつて話す能力と書く能力がCEFRのC2レベルであると判断された者は、他の外国語を選択することができる。	○	○				○					
	日本語表現技術Ⅱ			1	演習	後	1・2・3・4		○	○				○					
	日本語表現技術Ⅲ			1	演習	前	1・2・3・4		○	○				○					
	日本語表現技術Ⅳ			1	演習	後	1・2・3・4		○	○				○					
	日本語研究 A（時事Ⅰ）			1	演習	前	1・2・3・4		○	○				○					
	日本語研究 B（時事Ⅱ）			1	演習	前	1・2・3・4		○	○				○					
	日本語研究 C（ビジネスⅠ）			1	演習	前	1・2・3・4		○	○				○					
	日本語研究 D（ビジネスⅡ）			1	演習	後	1・2・3・4		○	○				○					
	日本語研究 E（医療・福祉専門）			1	演習	後	1・2・3・4		○	○				○					
	日本語研究 F（人文科学）			1	演習	後	1・2・3・4		○	○				○					
	日本語能力試験対策講座Ⅰ			1	演習	前	1・2・3・4									○	○	○	
	日本語能力試験対策講座Ⅱ			1	演習	後	1・2・3・4									○	○	○	
	日本語集中講座			1	演習	前	1・2・3・4									○	○	○	
キャリア教育	キャリアデザイン入門	2			講義	前・後	2	学科ごとに異なる		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	キャリアロールモデル研究			2	講義	後	2			○	○		○	○					○
	企業に学ぶキャリアデザイン			2	講義	前	2			○	○		○	○					○
	プロアクティブ人材育成			2	講義	後	2			○	○		○	○					○
	キャリアサポート演習			2	演習	通	3			○	○	○		○	○	○	○	○	○
	キャリア基礎力Ⅰ			2	講義	前	2・3		○	○	○								
	キャリア基礎力Ⅱ			2	講義	後	2・3		○	○	○								
	インターンシップ短期			1	実習	前・後	1・2・3		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	インターンシップ長期			2	実習	前・後	1・2・3		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

I 学修

II 資格取得

III 人間生活

IV 教育人文

V 社会情報

VI 教職課程

VII 諸課程

VIII 単位認定

IX 他大学との単位互換

X 大学院

XI 施設

XII Q & A

XIII 教務関連

学部のハンドブック